

今治市民活動センターだより

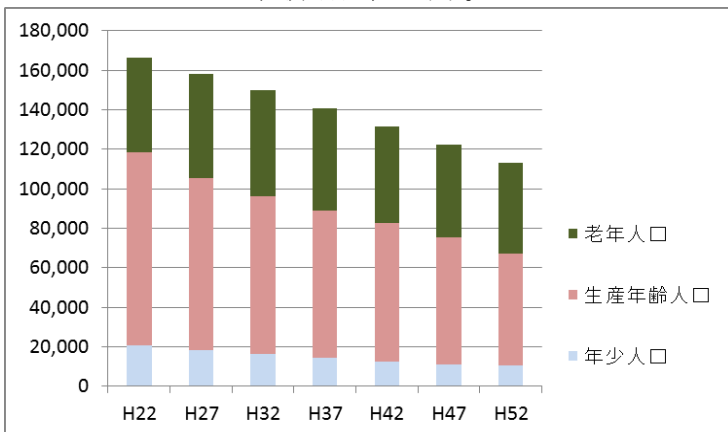
# 夢サラダ Vol.58

2015.7.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。  
「今治市民活動センター」  
指定管理者:(特非)今治NPOサポートセンター  
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234  
E-mail imanpo@nifty.com

## 今治市の未来は

”地方創生”というキーワードを耳にする機会が増えた。直面する人口急減・超高齢化という課題に対し、それぞれの地域の特徴をいかした具体的な取り組みに対して、政府が支援する検討が進む。今治市の人口減少率も待たなしの状態だ。「自治体消滅」という危機を孕んだ自治体としても位置づけられた(20~39歳の若年女性の減少率による「日本創生会議人口減少問題分科会」)。「働く場」をつくることももちろん大事だが、同時に「働き方」や「暮らし方」を考えたい。高度経済成長の陰で格差が広がり、生きづらさを抱える人が増えてきた現実がある。生産力や競争力のみならず、風土を守り、つながりを大切にしたい豊かな暮らしのベースの上にある経済活性化を願う。



▲平成 52 年の人口予測は 113,000 人(52,000 人減)。生産年齢人口:50.3%(5.7%減)、老年人口:40.4%(8.2%増)。経済社会に大きな負荷となる。\* ()は平成 27 年比。(国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所)

## NPO が暮らしを支える

財政の逼迫も進む中、地域活性化の担い手として、多様なセクターが一致団結することが重要だ。これまで、社会づくりの担い手として活動してきた NPO も、その果たすべき役割を改めて考えたい。今治市には、現在 43 の NPO 法人が活動している。その活動分野は様々で、ボランティアをベースにした活動から、有償で社会的サービスや商品の提供を行なう事業型 NPO も活躍する。地域が抱える課題が複雑化・深刻化する中、ニーズに応じた多種多様なサービスが存在することが不可欠だ。主体的に活動する NPO がバラエティあふれるサービスを提供し、それを自由に選択し、享受できるようになれば、暮らしの質がぐっとあがる。

No.	活動分野	数	%	No.	活動分野	数	%
1	保健・医療・福祉	34	15.4	11	国際協力	8	3.6
2	社会教育	12	5.4	12	男女共同参画	6	2.7
3	まちづくり	27	12.2	13	子ども健全育成	21	9.5
4	観光	6	2.7	14	情報化社会発展	4	1.8
5	農山漁村等	8	3.6	15	科学技術	1	0.5
6	文化・スポーツ等	15	6.8	16	経済活動	15	6.8
7	環境保全	16	7.3	17	職業能力開発等	14	6.3
8	災害救援	4	1.8	18	消費者保護	3	1.4
9	地域安全	4	1.8	19	団体運営助言等	14	6.3
10	人権擁護・平和	9	4.1	20	条例等で定める活動	0	0

(今治市内 NPO 団体 分野別登録数 ※分野名は省略しています)

ただ、現実的には「こころざし」は高くとも、慢性的な人材・資金不足に陥るなど、組織運営上の課題に直面する NPO が多い。結果、個々の試行は局地的になり、地域の課題を解決するビジョンが描くにくい。支え手を増やし、連携を深めねば……。急増する団塊の世代の退職者や子育てで離職した主婦層が地域で活動できる状況がある。また、社会的使命を感じた若者が、地域活動に参加したり、社会的ビジネスを創業したりする意欲を聞く。こうした人々とフラットに対話ができる場づくりが必要だ。そんな思いで毎年行っている「NPO 現場体験ツアー」がある。“地方創生”が叫ばれる今期、NPO の現場にも眠っているアイデアがあるはずだ。ライフスタイルの多様化に対応した新しいビジネス、中長期滞在や移住などの人口減少に歯止めをかける取り組みの現場をのぞいてみたい。



まちで目にする“共同作業所”という建物。住み慣れた地域で自立して豊かに暮らしたい。そんなあたり前の願いを応援する障がい者が働く場だ。ここで展開されるものづくり。「工賃倍増計画」のスローガンが飛び交う中、関係者の思いは複雑、そして願いは深い。「幸せ」「やりがい」を地域との交流の中で見出す現場には、真の“地方創生”のビジョンが凝縮されていた。





## NPO 現場体験ツアー 福祉作業所のものづくり最前線

地域活動に参加したい、社会貢献活動に興味がある etc そんな方々を地域の身近な活動現場にご案内する「NPO 現場体験ツアー」。今治市内の学生の皆さんに数多く参加いただいていた。今年度、第1回目となるツアーは、福祉作業所の現場に突入。「外部とのつながりを作っていきたい」という思いから、本来、お休みの日曜日にご案内いただいたのは「作業所こまどり」。関わる職員の願い、利用者が実際に働く現場での生きた交流が育まれた貴重な機会となった。



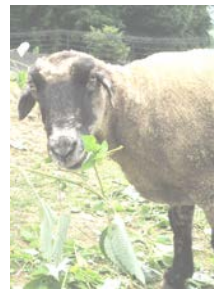
### こだわりのものづくり

一步、踏み込むとそこは「おもちゃ箱」のよう。ところ狭し並ぶカラフルな綿糸に織り機。糸を紡いでいた青年が「こんにちは」と声をかけてくれた。ここは緑豊かな自然に囲まれた郊外にある「作業所こまどり」。平成15年に設立した小さな作業所だ（平成23年にNPO法人化）。利用者は7名。手織りの布製品、木工細工などの製品をつくる工房だ。「ただ織りが好きで、おもしろくて。一つの作品が完成するまでの工程にはたくさんの学びがある。この子（利用者）達にそれを知って欲しい。」理事長の松田鈴美さん、現場を切り盛りする菅まりさんはものづくりに取り組む意義を語ってくれた。



▲糸を紡ぐ工程を教える 菅さん。奥の女性が松田理事長。

準備された作業をただこなすのではなく、綿ができ、糸にかわる過程。色合いや風合いの変化を感じると人間活動である。素材に出会う中で季節を感じ、一つの製品をコツコツ仕上げの中で達成感を得る。ものづくりは人の心を豊かに成長させてくれる。この精神は年々高まり、平成21年からは、なんと羊を飼うところから始めてしまった。完成したフェルトマフラーを手にとってみた。何ともやさしい感触。「この毛は“ハルちゃん”の毛ね」ハルちゃんとは羊の名前である。牧場で出会った愛らしい一頭の羊の顔を思い浮かべ、思わず笑顔になった。



### 障害者自立支援法

障がいの有無にかかわらず、地域で安心して日常生活や社会生活を営むことができることを目的に施行された法律。問題となっていた地域間のサービス格差、障がいの種別間の格差などを是正しようと、各種福祉サービスを一元的、「保護」から「自立」に向けた支援に舵をとった。従来の制度と比較して、継続的な医療費の自己負担比率は、5%から10%に倍増した。高齢化社会に向け、増加し続ける医療費の財源確保は大きな課題であり、福祉サービス等の費用を皆で負担し合う仕組みに強化した形だ。同時に国が補助していた在宅サービスも含め、国が義務的に負担する仕組みに改めた。



### 非効率の中にある価値

◀見学会参加者はワッペンづくりにチャレンジ。羊の毛を使った、オリジナル作品づくりに夢中になった。

「この1枚ができるまで何ヶ月もかかる。効率を求めているは良いものは生まれにくい。ものづくりにかける信念が伝わる。「量産しないと、工賃があがらないのでは・・・」と投げかけてみた。「ここに来る子（利用者）達はそれぞれ個性がある。障害者自立支援法（※1）により、障がい者をひとくくりにし、ここで活動をする価値を全て、工賃におきかえようとしているように思えた。悩みました…」制度移行の時期に渦巻いていた葛藤が伺えた。実際、量産とは対極の現場だ。ニーズがあり売り切れてしまう商品もあるが、無理はしない、させられない。

「ここにあるのは暮らし。リズムがある。」その言葉から、やりがいや幸せを感じる働き方のセオリーを感じた。改めて「仕事」について考えさせられた。“地方創生”のスローガンのもと、目指される「雇用」。ただ、地方に求めるものは「仕事（賃金）」というよりは「働き方」ではないか…、と。ここ数年、「こまどり工房」の商品は注目度を増している。大量生産はできないが、プレゼントで買ってください方、出来上がりを予約して待つくださる方とファンは多い。利用者も職員も一緒に過ごし、一緒に作業する。そんな空間・時間から生まれる商品を求める市場からも、「働き方」、いや「暮らし方」に重きを置く価値観が感じられる。



### 身近にあった小規模作業所のいま

法律により日中活動の場は、①就労継続支援、②就労移行支援、③自立訓練、④生活介護、⑤療養介護（国の事業）と⑥地域活動支援事業（市町の事業）に再編された。従来の小規模作業所は、利用者数の問題や場所の確保の問題を抱えながら、平成17年の法律施行から、ここ5年の間に、新たな事業に移行してきた。日中活動の場と生活の場を分離し、地域の中での暮らしを応援することが基本となっている。身近なところに多様なサービスが存在することが求められ、例えば、空き家の活用などを視野に入れた規制緩和、働く意欲を支援する雇用とのマッチングなどが目指される。



▲「こまどり工房」のコンセプト。草と木と布と・・・。



### 必要な第三者のチカラ

とは言え、「工賃もあがりませんでした」補足しながら販路についても教えてくれた。ここに外部の力は大きいという。「こんな商品が欲しい」と持ち込んでくれるパートナーは地域にいる。「素材はあっても、商品開発の具体的なアイデアはないので・・・」と菅さん。「こまどり工房」の商品を扱うある施設から「つくる度に品質があがって納品される」、そんな評価を聞いた。売り手や市場と対話ができるコミュニティの中で、商品のクオリティへの期待感を直に受けている強みがありそうだ。

実際、内部にデザイナーや専門家はいない。「好きこそ物の上手なれ」か、ここまですれば職人技。積み上げてきた技術と経験の蓄積力は大きい。さらに、商品開発へのチャレンジ精神はかなりフレキシブルだ。「もっと若い人達が担い手だと思った」、視察での訪問者に投げかけられた一言があるそう。象徴的なエピソードに聞こえた。最後に今後の目標を聞いてみた。「自分たちにできることをしていくだけ。地域とのつながりが一番大切。やっぱり人ですから」と。生きるように働く空間からできあがる「こまどり工房」の商品を手にとってみては。



▲珍しい「くず布」の織り物。菊間の森でとれる「くず」を紡いでいる。手に取ると輝く光沢がある。何度もたたいて出る風合い。

◀飼育から手がけているのが「ケナフ」。できあがった糸を横糸に、縦糸には今治タオルを織り込み「ボディタオル」ができあがる。



### 参加者の声

- ☆作業所の中に響く音がとても心地よかった。「カタカタ」という機織りのリズムはゆっくりしていて、商品イメージと重なった。
- ☆何となくいいな...と思っていた手づくり品。量産とは違うあたたかみが生まれる意味がわかった。
- ☆福祉作業所に行くことはそれだけでハードルがある。交流を望んでいることを知ることができ、印象が変わった。
- ☆羊から飼っている様子や製品への思いについて、売り手や売り場で伝えるしかけが大切だと思った。







# 平成27年度 市民が共におこすまちづくり事業

補助団体決定!

去る6月4日(木)に行われた公開プレゼンテーション審査を経て選ばれた6団体の補助事業をご紹介します。

## 事業名：キャリアプラットフォーム事業▶

団体：特定非営利活動法人今治シビックプライドセンター（代表）友田 康貴  
県外に出た若者が今治の企業を知り、地元に戻って働くチャンスを数多く持てるようなまちづくりを目指す。★8/25(火)若者会議「今治で働くということ」

★9/8(火)具体的に始める講演会「学生案を実現可能な形にするには」



## 事業名：きくまサイクルエリアツーリズム

団体：ふれあいステーションきくま（会長）吉井 敏

菊間の祭り・風習・伝統産業を資源とし、地域ファンづくりのため、サイクリングコースの調査等を行い、一過性で終わらない体感型の魅力を発信する。

★モニタリングイベント①「サイクリング+菊間瓦体験」②「サイクリング+お供馬」



## 事業名：今治まつり踊り活性化事業▶

団体：海道よさこい祭実行委員会（代表）青野 誠司

四国三大祭り「高知よさこい」本場の醍醐味を取り入れることにより、他県商店街との交流促進や地元の文化発展への関心を高め、活気あるまちづくり、秋祭り活性化で地域の魅力アピールへとつなげる。★10月「今治商人まつり」



## 事業名：しまなみ地域活性化事業（「しまなみカメラ女子旅」の実施）

団体：tsunagu プロジェクト（代表）大橋 麻輝

歴史・自然・グルメ等を愛する全国のカメラ女子により、しまなみ＝今治の魅力を発掘、写真展やウェブサイト等を通して情報発信する取り組み。

★9/26(土)・27(日)「しまなみカメラ女子旅」実施 ★写真展の開催



## 事業名：市民トリアージの研究と普及▶

団体：市民トリアージ研究普及会（会長）田中 弘

災害等の混乱時に備え、救命率を上げる「トリアージ」の手法を調査研究、応急処置を学び、減災に向けて市民スタッフの養成・啓発を行う。

★8月・1月「医学知識研修会」普及員募集・育成 ★11月「認定講座スタート」



## 事業名：鈍川地区稲わらアート製作・展示

団体：鈍川地区都市農村共生・対流協議会（会長）越智 實鶴

農村アートを切り口に、遊休農地の活用、都市住民との交流促進、過疎高齢化が深刻化する鈍川地域において注目度を高め、活性化をはかる。

★9月～「巨大稲わらアート」製作・展示



### \*-\*-\*市民が共におこすまちづくり事業とは？-\*-\*-\*

市民自らが企画・実施する継続性のある様々なまちづくり事業に、今治市が1団体1事業につき最大50万円を助成する事業（市民活動推進事業）です。他団体との協働により、それぞれの特性を活かしてより効果的に事業（協働推進事業）を行うスタイルも対象となります。（最大100万円）書類審査と公開プレゼンテーション審査を経て、事業の採択が決定されます。審査基準は、公益性・自発性・団体の評価・費用対効果・事業の効果の5つの項目から採点されます。



▲プレゼンテーションに熱心に耳を傾け、各団体へ具体的な質問を投げかける審査員の皆さん

★…活動・企画にぜひ足をお運びください。

